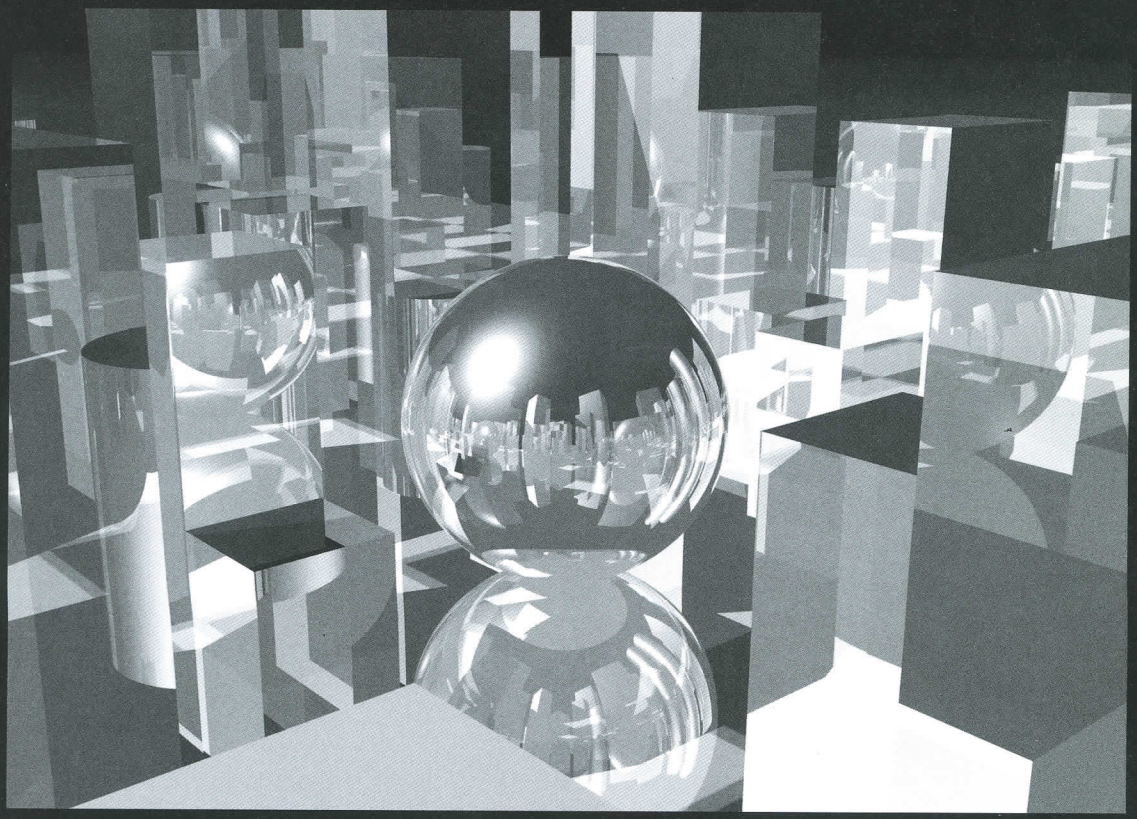
MEDIA REPORT



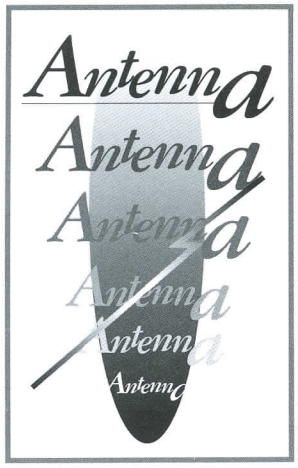
0156

VOL.77 特集 アニマトロニクスの世界

●SPECIAL● 人間に近い動作を追求したサイボットシステム
太古の恐竜から伝説上の人物まで
よりヒューマンでフレキシブルなロボットへ

●WATCHING● 大型映像の世界『ザイオン・キャニオン〜神々の宝』
［国内の主な大型映像施設リスト］

●ANTENNA● ネットワーク・ニューロベビー
THE OLYMPIC EXPERIENCE



ネットワーク・ニューロベビー

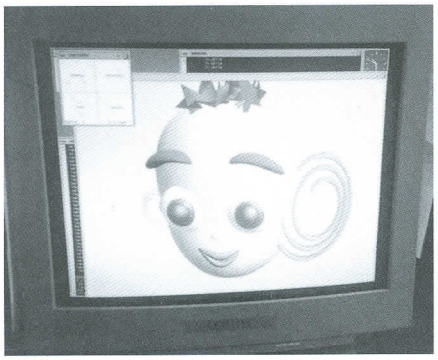
～SIGGRAPH '95会場と結んでの公開実験～

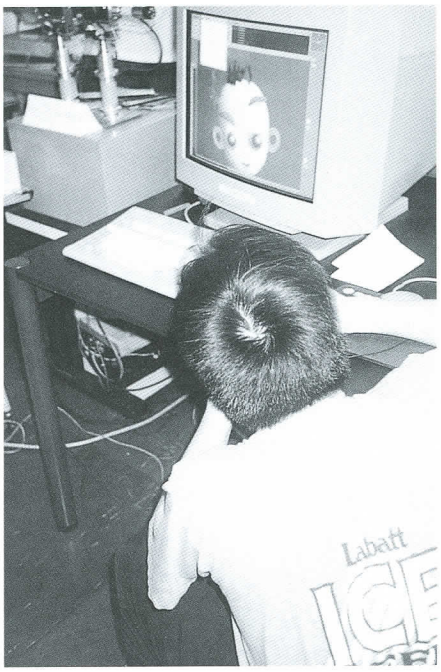
電子世界の赤ちゃんが独自の反応を

「よしよしよし」と画面に向かって話しかけると，モニター内の赤ちゃんが喜怒哀楽の表情と共に反応する。この場合，赤ちゃんはCG映像による‘電子生物’。本誌Vol.52「アーティフィシャル・ライフ」特集において紹介した『NEURO BABY』(ニューロベビー) は，CGアーティストの土佐尚子氏が中心となって開発し発表した一種の人工生命の形態といえる。

いわば仮想のCG空間に生きているこの赤ちゃんは，センサーの働きにより外部からの音声の抑揚や強弱等を認識し，独自の学習アルゴリズムであるニューラル・ネットワークで判断をする。実際の声のサンプリングから特徴を抽出したものが，この判断のためのデータベースとなっている。相手の感情に応答した喜怒哀楽のリアルタイムな反応と，相手に対応した学習能力が，大きな特徴となっている。

今回そのニューロベビーが，ネットワーク上の存在として，またインタフェースとして，再び登場した。毎年夏に注目されるCGコンベンションであるSIGGRAPH会場（今年はロスアンジェルス）と，東京大学生産技術研究所を結んでの公開実験である。ニューロベビー自体，93年のSIGGRAPHにも登場し話題となったわけであるが，この度の試みはネットワーク上の非言語対話のためのインタフェースという点であらためて注目されている。

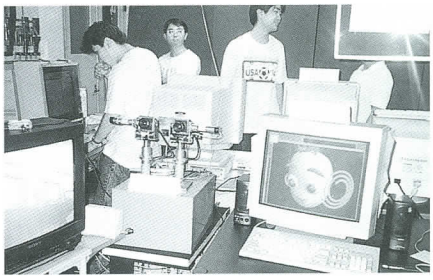

▲「今，何と言ったの？」と耳を傾けるニューロベビー


▲ニューロベビーの気分もあり，反応させるにはコツが必要!?　汗だくのスタッフ

顔の表情が相手側の意思を伝える

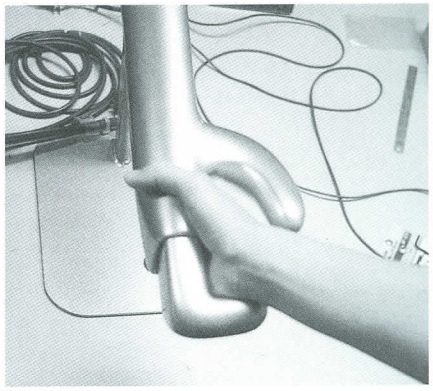
この新しい「ネットワーク・ニューロベビー」は，双方の会場にコンピュータおよび周辺機器を設置し，通信回線を経由してリアルタイムに感情のやりとりを行う。言葉や文化が異なる人々の間で，どの程度顔の表情でコミュニケーションが可能かといった点も一つの課題であった。非言語の対話がどの位‘翻訳’できるかという点である。また，手の握り方の力の強さを相手側に伝えるハンドシェイク・マシン，ニューロベビーが相手の位置を検出し顔をその方向に向けるアイトラッキング装置，といった新しいシステムも併せて導入された。

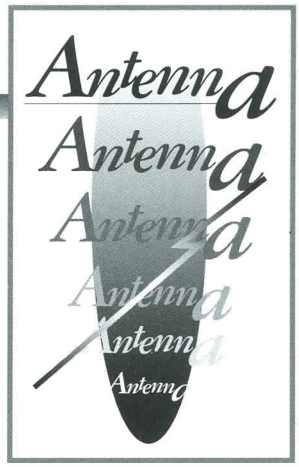
日本時間で8月 7日から12日にわたって毎朝行われた実験は，数々の試行錯誤を経て，行われた。カメラを備え，お互いの会場の模様も見えるようにとの工夫もなされた。インターネット回線の一つであるSINETも利用，様々な方式が検討された。時として，繋がりにくくなったり，相手側との通信が事実上遮断されたりすることも起きたが，貴重な試みであったといえよう。


▲なかなか繋がらなく苦戦する場面も（東京大学生産技術研究所にて）

ニューロベビーは，この試みにより，いわばネットワーク上の感性表現エージェントともなったわけであり，これからのネットワーク仮想空間でのますますの活躍が期待できる。文化の異なる人々の間での相互理解，時間と共に成長する仮想キャラクター，VR空間での感情表現等々，興味深くかつ重要なテーマはこれからも続くとのことである。

（取材協力：土佐尚子（ATR知能映像通信研究所）
橋本秀紀（東京大学生産技術研究所）
瀬崎　薫（　〃　））


▲ハンドシェイク・マシンでは握り返す力が伝わってくる



THE OLYMPIC EXPERIENCE

アトランタ「風と共に去りぬ」から五輪の街へ

100周年を迎えるオリンピック

1996年アトランタで開催されるオリンピックは，ギリシアで始まった近代五輪の100周年にあたる。現在，'南部の首府'アトランタ市では，スタジアムや選手村の建設が急ピッチで進められている。首都圏交通局 MARTA の地下鉄やバスにもオリンピックのマークが目立つ。この機会に，成長するアトランタをさらに大きな21世紀都市へとの意気込みである。

当地のオリンピック委員会では，様々な形でこの一大イベントをプロモートしている。市内随所で売られているオリンピックに関連したTシャツを初めとしたグッズ類もその一つ。アニメ的なマスコットのイジーの他に，有名デザイナーのもの他，色々展開している。

オリンピックのショーケースとして

市内有数の繁華街アンダーグラウンド・アトランタは，南北戦争時に破壊された旧駅舎地区に再開発された地下街ショッピングモールとして有名であるが，ここにはオリンピックのショーケース兼店舗としての「オリンピック・エキスペリエンス」(The Olympic Experience)がある。今や人気スポットの一つともなったここでは，会場模型や展示パネルあるいは情報端末等が並び，オリンピックの概要が伝えられている。また，グッズ類も豊富に取りそろえられていて，来場客の購入と共に「オリンピックへの協力ありがとう」との係員の声が都度聞こえてくる。

また，プロモート活動の一環としては，次のようなことも行っている。オリンピック記念公園(建設中)の敷石への個人名を刻むサービスである。(Centennial Olympic Park Brick Program) $35の寄附金を提供した人は，レンガに名前や短いメッセージあるいは年号等を刻むサービス(1行14文字×2行限度)が得られる。結婚記念や誕生祝いその他目的は様々である。そして，このレンガは他の大勢の人々のものと一緒に公園に実際の敷石として半永久的に敷かれ，いわば一般公開の公共物となる。訪れた時に自分の刻んだレンガがどこにあるかがわかるような案内ももらえる仕組みである。また，このレンガの複製(コピー)もさらに$25の寄付で自宅での保管用にもらえる。ユニークな活動の一つといえよう。

10カ月後に迫ったアトランタ・オリンピック。さらに多くの話題を提供することであろう。すぐ近くにあるコカコーラ博物館(The World of Coca-Cola)からもアンダーグラウンド・アトランタの回廊を抜けてすぐの立地。新たな観光名所となった「オリンピック・エキスペリエンス」も多くの情報を集約し，開幕に備えている。

▲オリンピック・エキスペリエンス。シンボルカラーはグリーンが基調

▲南部諸州全体，アトランタの位置するジョージア州，スタジアム計画等を包含した展示

●DATA

名　　称：The Olympic Experience
場　　所：Underground Atlanta 内 Alabama Street & Peachtree Street
TEL.404-658-1996
開館時間：月曜ー土曜 10：00-21：30
日曜 12：00-18：00

MEDIA REPORTは、映像・イベント・展示・ニューメディア等々、あらゆるコミュニケーションを対象とし、電通プロックスが独自の視点で発行する月刊マガジンです。
お問い合わせは右記の宛先までお願いします。内容充実へ向けての皆様の積極的な御意見もお待ちしています。

〒104　東京都中央区築地3-8-5
株式会社電通プロックス
開発本部　MEDIA REPORT編集部
TEL：03-5551-9450
FAX：03-5551-9475
KYG05644@niftyserve.or.jp

なお、特に本誌を定期的に送付希望の方には、会員登録制による申し込みを受け付けております。詳しくはお問い合わせ下さい。

〈95年9月より第7期〉
MEDIA REPORT会員（会費5,000円・送料込み）
→第7期の場合は96年3月号までとなります。

BACK YARD

●編集後記

今回,最近の展示空間やアトラクションを彩ることの多いロボット,即ちアニマトロニクスといわれている領域を少しまとめてみました。アニマトロニクスという名称は,専らディズニーがそのテーマパークのライドと組み合わせて使うことが多いので,わが国では各社色々な呼び方をしています。

産業用のシステムとは大いに異なった発展を遂げているこの技術,演出という要素を取り入れながら,近年ますます発展してきています。現代の人形師とでもいうべき専門作家あるいは職人の方の活躍も目立っています。人間型を追求したものの中には気味が悪いほどリアルなものもあり,適切な空間演出を伴えば,これまた一種の立体造形バーチャル・リアリティでさえあります。

また,今回取り上げたビルドアップ・エンターテインメントは,SFXやCGの領域でも世界的に有名となりつつあり,日本発のソフトとして若きクリエイター社長である岡部暢哉氏の積極的な活動展開と共に,最近新聞等でしばしば紹介されているのは周知の通りです。米国の映像関係者からも一目置かれていて,今後の活躍に期待したい所です。惜しむらくは,他の例同様,日本の中にこのようなソフト育成と発展の土壌がやや薄い点でしょうか。岡部氏に限らず,西海岸等に進出するマルチメディア系のアーティストが増えている現在,ますますの才能の流出が懸念されます。

大型映像のリストも今回あらためてまとめてみました。シアターの増加ぶりには驚きます。こちらも,日本発の世界に通用するすぐれた作品が増えることを期待したい所です。

月刊　毎月20日発行
「MEDIA REPORT」'95.10通巻77号

発　行　COMMUNICATIONS EXCELLENCE DENTSU　株式会社 電通プロックス

開発本部　MEDIA REPORT編集部
TEL：03-5551-9450
FAX：03-5551-9475
KYG05644@niftyserve.or.jp
編集人　仲村　浩
スタッフ　青木一宰　小谷美樹
中村孝一　柳原直穂里
デザイン　株式会社電通アクティス・デジタルメディア室
表紙CG　阿部　寛（株式会社電通コーテック）
印　刷　株式会社電通アクティス

定価750円
（本体価格.728円）

●本誌掲載記事の無断転載を禁じます。